

2023/01/28

埼玉県立大学研究開発センターHプロジェクトオンラインシンポジウム

「働く」を支える様々な取組や課題を知ろう！

～その人らしく活躍できる「働き方」の実現を目指して～

表現活動を仕事にし、社会とつながる取組について

社会福祉法人みぬま福祉会 工房集



みぬま福祉会

1984年

重い障害を理由に、卒業後の進路がない仲間たちのために、「みぬま福祉会」が発足。
(無認可施設として5名の利用者でスタート)

1985年

法人化して、「川口太陽の家」が開所。

理念

1. 県南各地のどんな障害をもっている人も、希望すればいつでも入れる社会福祉施設づくりをめざします。

・・・障害の重い人や他の施設を断られた人など様々な困難を抱えた人を受け入れ、利用者に合わせた施設作りを重ねてきました。

2021年現在、埼玉県南部を中心に通所・入所施設など22の事業を展開。

利用者は約300名まで増加しています。

2. 入所者は障害の種類や程度、発達段階等が充分考慮され、一人一人のニーズに応じた生活、労働、教育、医療が受けられ、

ともに生きる「仲間」として、その自主性が尊重され、人権が最大限に守られるような社会福祉施設づくりをめざします。

・・・どの事業所も、「一人ひとりを大切にすること」を実践の柱に、暮らしづくり、仕事づくりが行われています。

また、「どんな障害が重くても働ける、働くことは権利である」として、福祉制度に関わらず、労働権を大切にしています。

3. 社会福祉施設は、その地域の中に存在し、その地域とともによりよい社会づくりをめざし、入所者は地域の

人々と助け合いながら、ともに生きることをめざします。

・・・障害がある人たちの暮らしや労働の中で発見した価値が社会の価値として、

社会のあり方に影響を与えていくことを願って、地域にひらき、社会へと発信していきます。



「仕事に仲間を合わせるのではなく、仲間に合った仕事にする」

缶プレスやウエス（機械油拭き布）作りの下請け仕事など、従来の仕事には合わない人たち。
その想いに寄り添った結果として、始まったのが「表現活動」でした。



それぞれ、一人ひとり何が好きなのか、何が得意なのか、職員との関わりを軸に多様な作品が生まれています。

みぬま福祉会 労働における3つの定義 . . .

社会に繋がること
お金を稼ぐこと
本人の発達につながる（自己実現）

工房集は2002年にギャラリーのある障害者の生活介護施設として開所しました。
工房集は仲間たちの「表現活動」を仕事として、社会に発信していくプロジェクトでもあります。
建築家やアーティスト、家族、福祉関係者、企業など...作家本人を中心に多くの人たちを巻き込みながら、
本来の福祉施設の枠を超えた魅力ある場所として、多くの人が集っています。

「そこを利用する仲間だけの施設としてではなく、新しい社会・歴史的価値観を創るためにいろんなひとが集まっていこう、そんな外に
開かれた場所にしていこう」という想いを込めて、
「集（しゅう）」と名付けました。

KOBO SYU

工房集の機能

日常的に場を開き、
障害のある仲間、職員、
家族、地域の福祉関係者、
住民、ボランティア、さらに
建築家、アーティストなど、
様々な人を巻き込んで表現活
動を社会へ広めています。



Atelier



Shop



Garden



Gallery



Cafe

開かれた施設（地域の拠点）



スタンドグラスのオーナメント作り



アートの魅力を通して、様々な人々・社会とのつながりが生まれています。
障害のある作家と訪れた方々が、さまざまな形のコミュニケーションを通して、お互いの価値観を学びあい、育み合う場になっています。



作家がお客さんと対話しながら、メッセージを贈る
「僕がひとつ、あなたのことをぼやいてみせましょう」



漫画家・関翔平さんによる似顔絵のワークショップ。



近隣施設の作家も、
工房集の中でワークショップを実施。

工房集での展覧会



展覧会ごとのコンセプトに合わせて、アトリエ併設のギャラリーや食堂など至るスペースに法人内の様々な表現が並びます。



グッズ展では、みぬま福社会以外にも埼玉県内の様々な商品の受託販売もしています。

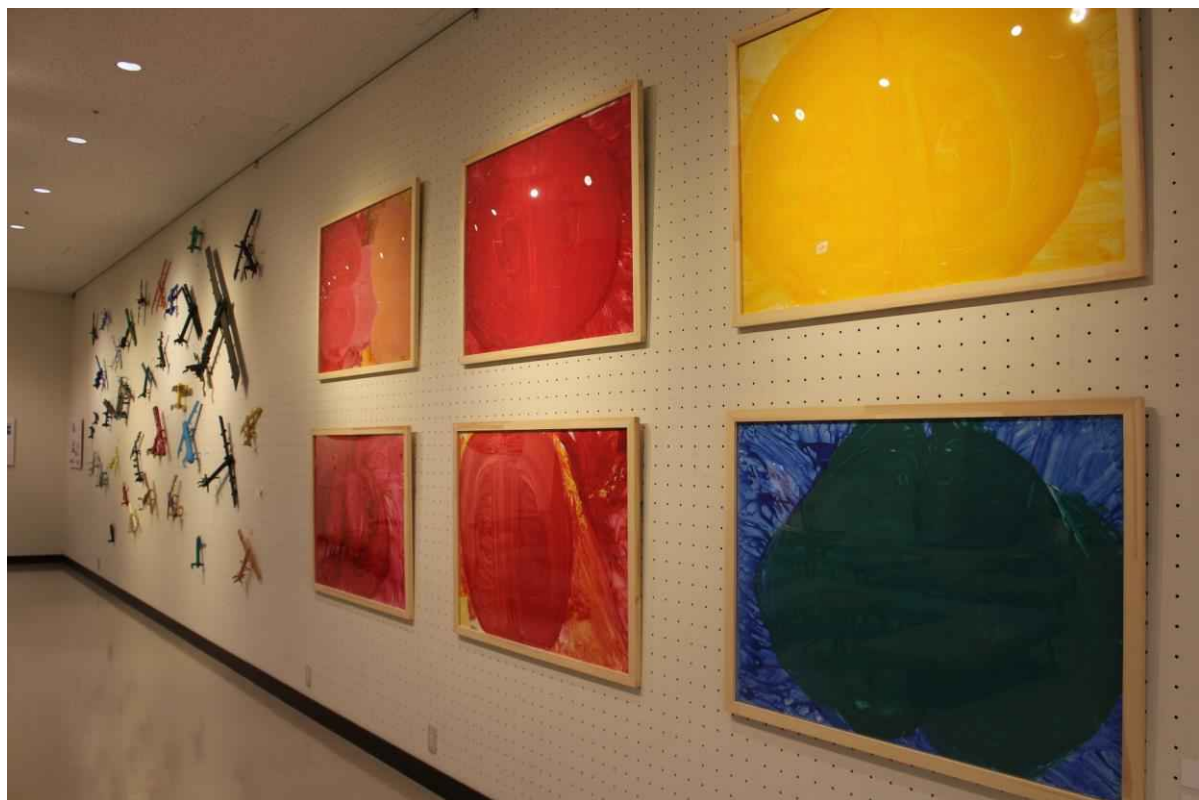


法人の後援会が運営するカフェ。作品展と共に、手作りのケーキとお茶をお楽しみ頂きます。

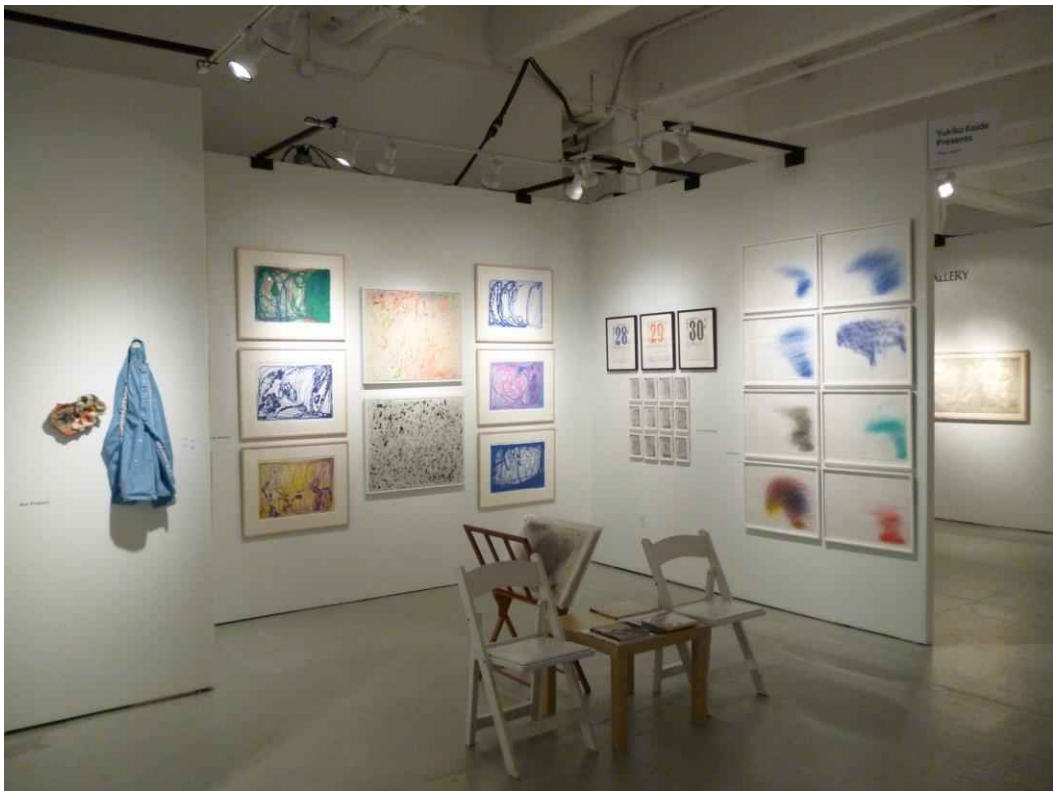
2012.9 工房集作品展「生きるための表現」 東京都美術館



2020. 10 「工房集 問いかけるアート」 埼玉会館



外部展覧会（一例）



2013 OUTSIDER ART FAIR (ニューヨーク)



2014 柴田鋭一 個展 (ニューヨーク)



2019 日本大使館イベント (ワシントンDC)

2007 LIFE (水戸芸術館現代美術ギャラリー)



2014 岡本太郎とアールブリュット (岡本太郎美術館)



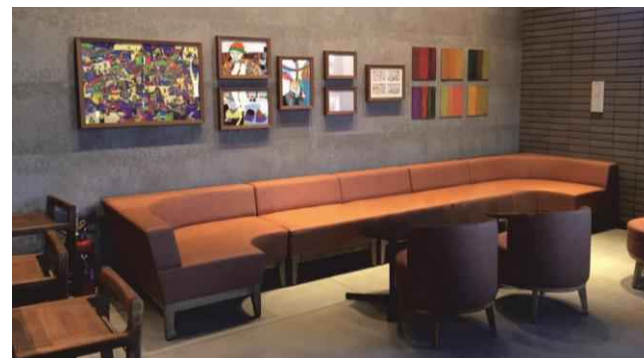
2017 表現の根源(日本大学芸術学部ギャラリー)



2012 ディープインパクト (マキイマサルファインアーツ)



2019 スターバックスつくば学園の森店



2020 特別展 あるがままのアート(東京藝大ギャラリー)



作品の二次使用例

BEAMS × KOBO
-SYU

BEAMS × YUKI TANAKA (2012)



↑ 作品のモチーフ「茶太郎」が全面にプリントされたボタンダウンシャツ。

← 作品の図案が刻印された革小物に。
BEAMS × SHOGO OZAKI (2013)



↑ 青窠（ミュージシャン）さんのコンサートツアーグッズに起用。



ブックカバーや、レストラン・カフェ・バーなどで使用されるコースターへのデザインに。



高島屋のノベルティとして、作品がポーチに。

大宮パレスホテルの高級ゼリーのリーフレットへ書き下ろし。



地域企業との連携。印刷会社のノベルティノートへ作品使用など。



↑ 年賀状作成サービスへ、書き下ろし作品が採用。

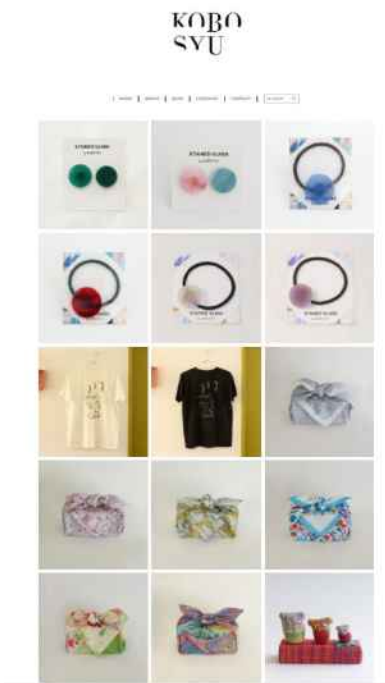
オリジナルグッズ



stained glass by KOBOSYU

(左) 和紙風札 ワンダーランド ¥4,000
(右) 黒田真二 ヘムてこ動物シリーズ ¥2,000

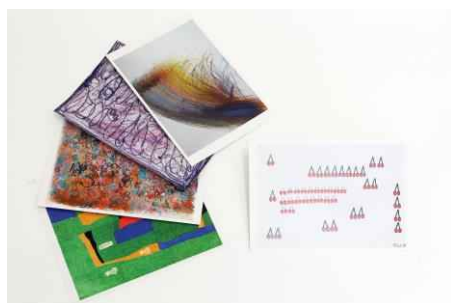
オンラインでの販売も開始。



YU HANIUDA



HISASHI IGARASHI



書籍・図録



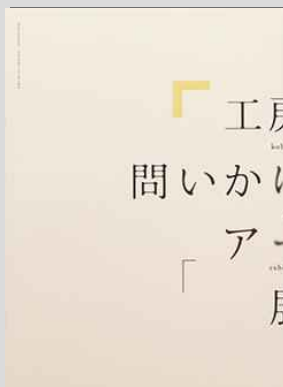
左：コンセプトブック（フィルムアート社）

右：問いかけるアート（さわらび舎社）

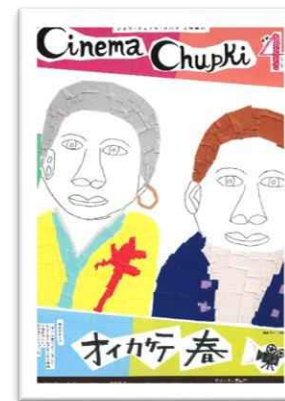
作家別作品集



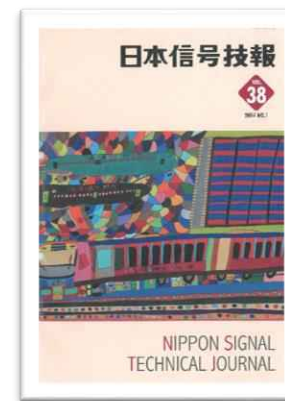
問いかけるアート展図録



チラシ・広報誌への起用例

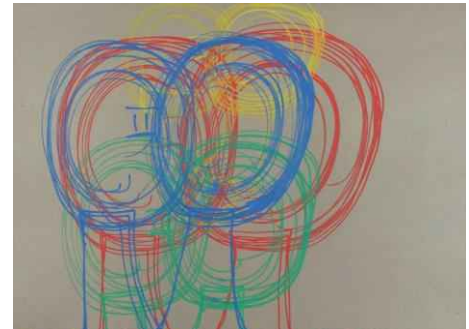
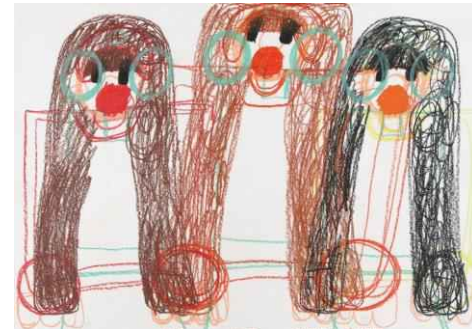


シネマチュプキ
タバタのチラシ
デザイン
※東京都巢鴨に
所在するバリア
フリー映画館

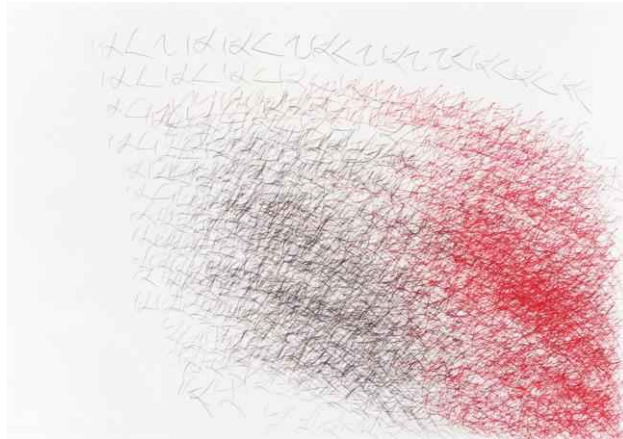


日本信号株式会社
日本信号技報
表紙への毎月起用

AKIKO YOKOYAMA



YUICHI SAITO



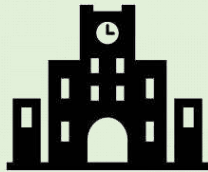
AYA WATANABE



AYA WATANABE

依頼：

中学校の美術鑑賞の授業で、仲間の作品を取り扱いたい。
実際の作品に触れ作家の話を聞き、感じたことを直接作家に話す機会を作ることで、鑑賞について学びを深める機会を作りたい。



戸田市の中学校

対 応

担当教職員とスタッフとで打ち合わせを行い、授業の趣意を確認。コロナ禍の為、対面での実施が難しかった為にオンラインでの実施となった。作家とスタッフがゲストティーチャーとなり、中学生と直接コミュニケーションを取り合う授業を実施した。



授業に使用された作品
渡邊あや「飛行機」(2020)

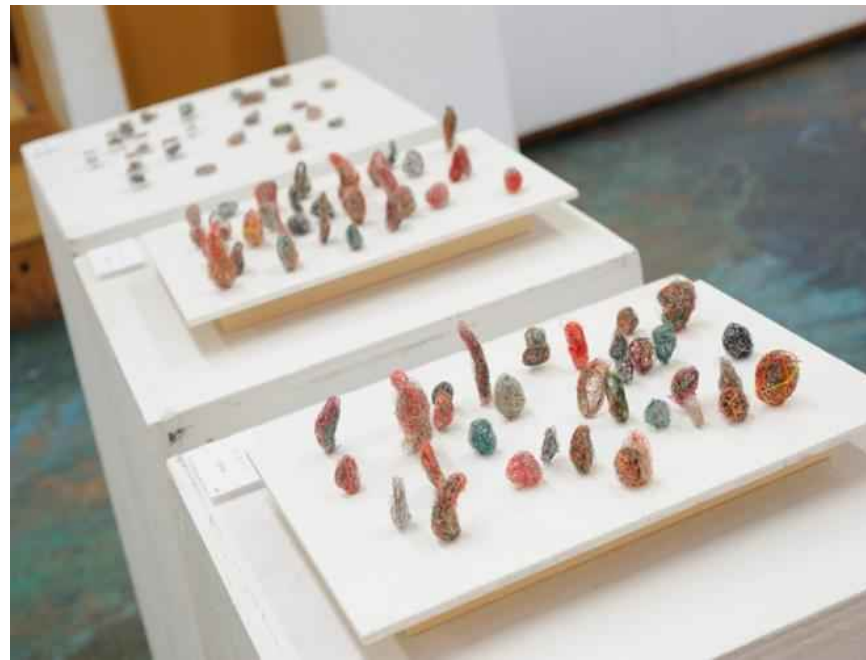
絵を見て実際に作家の方に質問する機会が初めてだったので、気になっていたことが分かり絵を見て感じるが増えた。
様々な視点で見ることできるようになり美術の楽しさがより感じられた。

どんな作家さんでもはじめから自分の絵柄やテーマを見つけられるわけではなく、模索する中で作ってという苦悩もあるんだなと気付かされました。七、八年もかけて自分らしさを見つけるというのは私だったら辛いのですが、そこを描き続けたことはすごいことだなと思います。



授業の感想 (左・下) 様子 (上)

SAKURA NARUMIYA



SINYA KANEKO





2017年度～

厚生労働省 障害者芸術文化活動普及支援事業

※2014年～2016年の間に、前進事業となる
障害者の芸術活動支援モデル事業が実施。

— 事業目的 —

障害のある人が芸術文化にふれ、楽しみ、
深めることができる社会づくりを推進する

— 事業内容 —

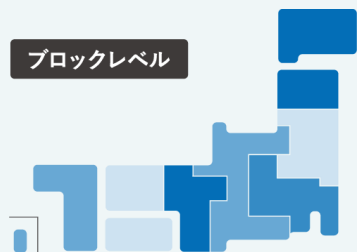


都道府県レベル

支援センター

47都道府県各地にて、障害者の芸術文化活動を支援するセンター

- ・ 支援センター設置地域内の相談支援、人材育成、発表・鑑賞機会の創出、情報収集や発信、ネットワークづくりを行う。

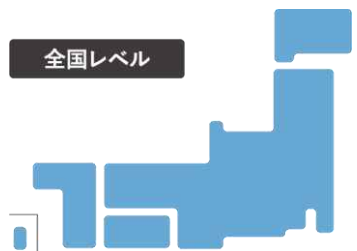


ブロックレベル

広域センター

7ブロックに分け、各地の支援センターをサポート

- ・ エリア内の支援センターへの支援、地方自治体の基本計画策定支援、ブロック会議および研修。
- ・ 支援センター未設置県の障害者芸術文化活動を支援&設置の呼びかけ



全国レベル

連携事務局

支援センターや広域センターの活動をサポート

- ・ 支援センター・広域センターへの活動支援を全国的・横断的に行う。

埼玉県における障害者アート振興

参照元：「障害者の自立と社会参加のための芸術・文化を核とした施策への提言」

2009年 3月

障害者の自立と社会参加のための芸術・文化を核とした施策への提言
～多様であることをお互いに認め合う社会の実現に向けて～
(埼玉県障害者芸術・文化懇話会)

ハード・ソフトの強み



彩の国さいたま芸術劇場



埼玉県立近代美術館

先駆的な活動を行う存在



海外での評価を受ける作家などの県在住者の活躍

県内での障害者アートの活動の現状と課題を分析し、

他県にはない埼玉独自の芸術文化施策の展開を目指すことに

3つの提言を元に、様々な推進事業を展開

2009年 4月

福祉部
障害者福祉推進課
障害者芸術文化担当

埼玉県障害者アートフェスティバル



埼玉県障害者アート企画展



近藤良平さんWS+ダンス公演



バリアフリーコンサート

実行委員会形式で実施。

事務局は県福祉部障害者福祉推進課障害者芸術文化担当が担当。

etc...

埼玉県障害者アート企画展について

2009

大学と連携して
企画・運営

2012

障害者アートマネジメントWSの
参加福祉施設職員・大学生が
企画・運営

2016

埼玉県障害者アートネットワークTAMAP±0、(社福)みぬま福祉会
による企画・運営。
埼玉県は共催者として、
主催と協働。

みぬま福祉会や工房集が大切にしていることを、
社会へより広く普及していくために...

2016年度

埼玉県障害者芸術文化活動支援センター

アートセンター集

art center syu

アートセンター集の活動理念

アートセンター集は、
芸術文化活動を通して人と人がつながり、
どんな障害のある人でも豊かな人生を過ごせる社会
を目指しています。

「創る」

「深める」

「広げる」

「守る」

をサポートします！

SAITAMA
STYLE



埼玉県障害者アートネットワークTAMAP±〇

タマッププラマイゼロ

埼玉をもっとUPしていこう！
マッピングしよう！



参加施設

31

団体

(2022年現在)

※発足時(2016年)
11団体

北部

NPO法人CILひこうせん
他4団体

東部

医療法人 双里会
他5団体

西部

社会福祉法人 昴
他7団体

南部

社会福祉法人みぬま福祉会
他11団体

「誰のための、何のための表現活動」なのか

埼玉県内で障害のある方の芸術文化活動を支援する人たちとネットワークを育み、「みんなでつくる」をキーワードに行う展覧会運営や、研修会を実施しています。



ネットワークづくり

活動紹介②

ネットワーク会議（定例会）

対面での会議@工房集



オンライン化

月1回の定例会では業務連絡の他、それぞれの施設での活動を共有したり、日々の表現活動にまつわる支援のお悩みについて話し合ったりと、ネットワーク間でのコミュニケーションを大切にしています。

研修会

参加者からこまめにアンケートを取り、フィードバックを行うことで、より実践的な研修を企画しています。

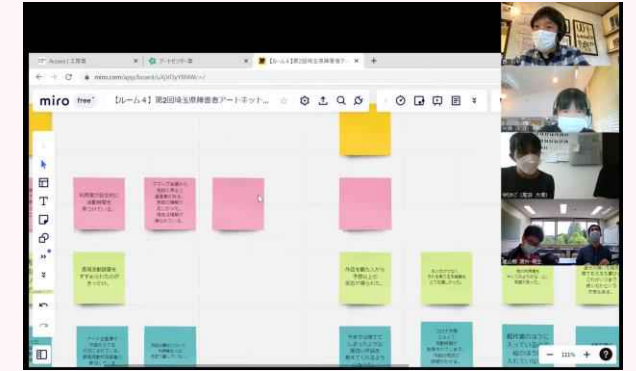
アートレクチャー



グッズ研修会



表現活動の意義についてのディスカッション



著作権に関するセミナー

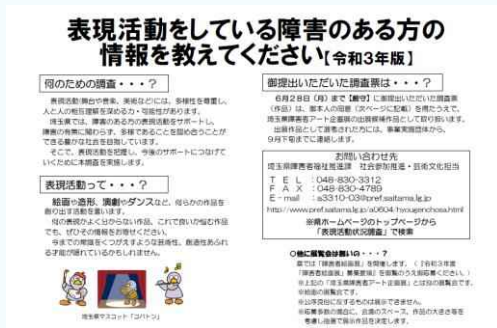


タマップ参加団体施設活動紹介



ITAMA
YLE

表現活動状況調査



作品選考会

① データ化した調査票を元に各自で選考



美術の専門家や福祉施設など、それぞれの視点で選考する「ミニ選考会」。

作品撮影会



記録集作成のための写真撮影会。撮影の協力しながら撮り方を学びます。

② 集計し、得票順リストを共有しながら語り合う「本選考会」。



本選考会では得票順リストを共有しながら、気になった作品について語り合います。

搬入・設営作業

福祉施設職員が中心となり、チームに分かれて設営作業。



障害のある人の芸術・文化活動の実態を調査。絵画や造形、ダンスや音楽など枠にとらわれない表現が毎年約700件近く集まります。

埼玉県障害者アート企画展



人と人をつなぎ、育む展覧会

主に埼玉県立近代美術館にて毎年12月に開催。選考会を経て、毎年100名を超える作家が出展します。誰もが驚くような表現や、美術的な価値だけでは図り切れない作品など、多種多様な作品が600点ほど展示されています。10年以上継続してきた中で作家はもちろん、取り巻く支援者をはじめとした地域で暮らす人たちなど、さまざまな変化が生まれています。



美術の専門家の視点や、学生を交えたトークイベントも毎年実施（オンライン公開）



織り&グッズ展



TAMAP参加施設同士での
コラボ製品も生まれています。

作家が直接お客さんとコミュニケーション
を取りながら作るワークショップも開催。

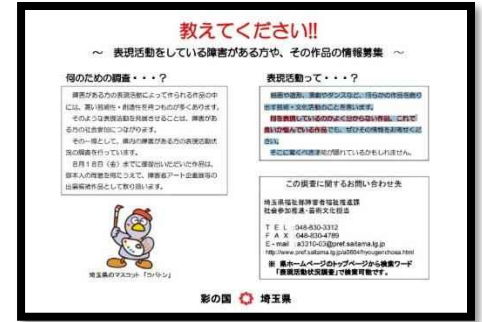


埼玉県内の福祉施設で作られた織り製品やアートグッズがあつまる展覧会。
本展覧会を目指してグッズ研修会の中で開発・改良を重ねたここでのしか出
会えないグッズが勢ぞろい。

自治体との連携



埼玉県福祉部障害者福祉推進課
 社会参加推進・芸術文化担当との連携。
 また、同課が「埼玉県障害者アートフェスティバル実行委員会」の事務局を担っている。



障害者アートの魅力発信裾野拡大事業

障害者アートの展示推進



公共施設への作品展示



埼玉県障害者アートオンライン美術館

#SAITAMA #障害者アート
オンライン美術館

動画コンテンツの作成には
 アートセンター集が協力。



県主催・共催イベントへの作品&グッズ出展



TAMAP参加施設の授産製品販売

障害者アートの利活用推進



県内企業への活用推進。
 ネットワークを通じて、企業が作品をリースし
 展示につながったケースも。

インパクトあるグッズ・華やかな空間、SDGs・CSRの取組にも！
障害者アートを展示・活用しませんか？

企業での採用事例多数！

弊館のある方の贈り出す作品は、近年、高い評価を得ています。芸術性・個性あふれる**魅力的な作品**を、貴社の取組に活用しませんが、障害者アート、障害のあるアートの**手触り**をお楽しみします。

- カレンダーやクリアファイルなど**ハルディグッズ**に
- 広報紙やカタログの**表紙**に
- **ロゴ**や**応援メッセージ**を華やかな空間に

心に響く独創的なデザインになります。個性あふれる作品が、お客様の視線に訴えます。貴社の取組(CSR、SDGs)にも効果的に訴えます。

埼玉県は、障害者アートを応援しています

詳細な説明、作品のご紹介、障害のあるアーティストが所属している福祉施設のご紹介など**マッチング**を行います。ぜひ、ご**相談**ください。

お問い合わせ先 埼玉県障害者福祉推進課 TEL: 048-830-3312 FAX: 03310-03@pref.saitama.lg.jp